



峰高だより



発行：京都府立峰山高等学校広報担当 所在地：京都府京丹後市峰山町古殿1185番地
Tel:0772-62-1012 Fax:0772-62-1013 www.kyoto-be.ne.jp/mineyama-hs/

第68回 両丹高等学校総合体育大会

激闘 & 激熱の両丹総体！ 男子総合6位 女子総合10位



サッカー



テニス(女子)

優勝おめでとう!!



△体操(男子) ▽テニス(男子)



▽前日の壮行会

5月21日(土)両丹高校総体が行われました。各部活動の選手は、峰山高校の代表としてチーム一丸となって試合に臨みました。この総体で3年生が引退する部活動もあり、先輩部員の思いや姿勢が後輩部員に引き継がれました。
競技に出場しなかった生徒たちも、峰山総合公園で行われた野球とテニスを観戦し、熱い声援をおくりました。

第3位
・バレーボール(女子下級)
・バスケットボール(女子上級)
・バスケットボール(男子下級)
・バドミントン(男子)



△野球観戦



球技大会

一球入魂 ～仲間とつなぐ 仲間とつながる～



6月1日(水)球技大会を行いました。比較的涼しい天候となりましたが、競技は大変盛り上がり熱い一日となりました。この球技大会をとおしてクラスの団結が一層深まりました。

優勝

バレーボール 2年3組
ソフトボール 3年3組
バスケットボール 3年6組
ドッジボール 1年4組



美化月間

美しい学校で気持ちよく過ごせるよう、本校では6月9日(木)から24日(金)までを美化月間として校内美化運動を行っています。各クラスの美化委員が中心となり教室に美化月間ポスターを掲示し、放課後に掃除点検を実施するなど、生徒の美化意識向上を促します。また、産業工学科3年生デザイン系統の生徒が、廊下等に掲示する美化月間ポスターの制作に授業で取り組みました。こちらは審査があり、受賞作品が選ばれました。

準グランプリ 伊藤 瑠奈さん(峰山中)



産業工学科 3年 工場見学

6月7日(火)産業工学科3年生は午前中に全員が福知山のエスペック株式会社様へ、午後は機械系統が株式会社島津製作所様へ、デザイン系統が京都市美術館へそれぞれ見学に行かせていただきました。エスペック株式会社様では、様々な検査機械や計測機器の製作工程を見学させていただき、講義では、取得資格によって仕事内容が変わるなど、生徒にとって身近な話題でお話をさせていただきました。株式会社島津製作所様は、2002年に田中耕一さんがノーベル化学賞を受賞されるなど、最先端の技術力をもつ企業です。創業の歴史や企業努力を生徒は熱心に聞いていました。デザイン系統は京都市美術館で作品鑑賞を行いました。普段、美術館に行く機会がない生徒にとって、多くの美術作品に出会うことのできる貴重な時間となりました。両系統の生徒ともにそれぞれが有意義な1日を過ごすことができました。



エスペック株式会社様での講義



株式会社島津製作所様で機械の説明を受ける

生徒の感想

京都市美術館が自分にとって初めての美術館でした。いろいろな人の描く様々な絵画を見て、すごく刺激を受けました。作者から見るものと、鑑賞者から見るものが全く違うように表現されていた作品もあり、驚きました。心惹かれる作品に出会えてよかったです。



京都市美術館での作品鑑賞



今後の道路を考える有意義な時間となりました。

生徒の感想

島津製作所で精密な機械を作っていることを知らなかったのが驚きました。作業をスムーズに進行させるために、目の前に作業用モニターを設置するなどの工夫が施されていました。互いに話し合いながら製作を進めており、このようにして効率的かつ精密な製品ができるのだと分かりました。今回学んだことも踏まえて進路について改めて考えてみようと思います。

部活動掲示板②

「ソフト」頑張っています!

ソフト ボール 部員数は少ないですが、自分たちでメニューを考え、「常笑・必笑」を合い言葉に、日々の練習に励んでいます。技術だけでなく、挨拶などの礼儀を身につけること、学習との両立を果たすことを意識して活動しています。



ソフト テニス ソフトテニス部は府大会出場を目標とし、日々練習に励んでいます。日頃の練習では声をしっかりと出し、集中して取り組むことを意識しています。初心者も経験者もテニスを楽しみ、お互いに成長できる雰囲気大切に目標に向かって頑張ります。



リレーメッセージ

一步を踏み出す

地歴公民科 石田憲彰 先生

「ここでたばるものか。」自分に言い聞かせながらここまで登りつめた。ここは空気が薄い世界である。寒い、足が痛い、頭痛い、なぜここにやってきたんだろうと自分に問いかける。遊びでもない、自分が望んでやってきたわけでもない。真夏の日本の頂点を目指す集団と一緒に「富士山に登る」という仕事である。

雲の間から一瞬だけ見ることのできた朝の太陽の光。毎日何気なく太陽を見ているが、こんなにありがたいと感じたことはない。太陽の光が自分に当たって、勇気づけられる。この山を制覇するのに頼ることができるのは、レストハウスでもらった木の杖と自分の足である。「ついた! やったぞ! 登った!」仕事を忘れ、自分の足で登ってきたからこそ味わえる達成感や喜びを座ってかみしめた。

山頂についたからといってここはゴールではない。家に帰るまでが仕事である。下り坂は体重が前にかかりすぎて足の指が痛い。やっと平坦な道へ出てバスに乗りほった。あの日本一の山に登ったのだと下から見上げた。

進路を決定するまでは長くつらいことが多い。自分で切り開く以外に道はない。人が歩いた道を行ったり、頼れるものが何かあったりするかもしれないが、最後まで登り切れるかどうかは自分次第である。自分を奮立たせ、その頂に登った時の達成感や喜びは一生に一度味わえるかどうかの経験である。ぜひ、高い理想を求め続けて挑戦してほしい。一步を確実に踏み出せば、山頂に到着できる。しかしながら、一番高いところに登り終えたからといって安心してはいけません。本当に自分が目指す道はまだ続いている。

